ストーンゲート、英国のパブ約300店をハイネケンに3億ポンドで売却へ

ストーンゲートのパブ約300店をハイネケンが買収するとの報道。実現すれば債務削減につながり、英国第2位のパブ運営グループとなる可能性がある

2026年11月20日（金）



ストーンゲート・グループが、パブ約300店をハイネケンに3億ポンドで売却することで合意したと報じられている。実現すれば、英国のパブ運営会社である同社の債務削減につながるとともに、ハイネケンの英国でのパブ保有数が大幅に増える。

この取引は、まずThe Timesが報じ、業界誌The Morning Advertiserが11月20日（金）に伝えた。同誌によると、売却は早ければ11月23日に完了する可能性がある。両社は正式に取引を確認していない。

売却対象となるパブは、ストーンゲートの「プラチナム」ポートフォリオに含まれる、価値の高い

物件1,034店から選ばれる見通しだ。売却が実現しても、ストーンゲートは約4,000店を引き続き運営する。報道によると、売却収入は同社の未返済債務の削減と、それに伴う利払いの軽減に充てられる。

プライベートエクイティ会社TDR Capital傘下のストーンゲートは、事業再編と財務基盤の強化に向けた幅広い取り組みの一環として、プラチナムのポートフォリオの選択肢を検討してきた。9月には、ハイネケンがストーンゲートからパブ約300店を3億ポンドで買収する交渉を進めていると報じられた。当時、ストーンゲートは、借り換え、一部売却、全面売却を含む複数の選択肢を検討しているとしながらも、決定には至っていないと説明していた。

同社はまた、直営パブの一部を賃貸・テナント方式の運営に移すことで、事業構成の見直しも進めている。この転換は、英国の多くのホスピタリティー事業者を圧迫している運営コストの上昇リスクを抑えることを目的としている。

ストーンゲートの直近の業績報告では、赤字が続く一方で、業績に一部改善が見られた。2026年7月5日までの40週間の調整後利益は3億400万ポンドで、前年同期の2億7,900万ポンドから増加した。税引前損失は5,300万ポンドとなり、前年の7,300万ポンドから縮小した。

ハイネケンにとって今回の買収は、長年にわたり築いてきたパブ保有戦略をさらに前進させるものとなる。同社のStar Pubs & Bars部門は現在、約2,350店を運営している。約300店が加われば、合計は約2,650店となり、Greene Kingを上回って英国第2位のパブ運営グループとなる可能性がある。また、2017年にPunchのパブ約1,900店を買収した後の事業拡大をさらに進めることになる。

今回報じられた売却は、不動産の保有を超えた意味を持つ。英国では、パブがビールなどの飲料を市場に届ける主要な販売経路であり続けているためだ。取引が成立すれば、パブ業界の集約が進み、ハイネケンは自社保有または供給先の店舗を通じた業務用市場でのビール流通において、より大きな地位を得る可能性がある。その結果、タップの設置場所や消費者需要をめぐって競合する醸造会社、飲料卸売業者、パブ運営会社に影響が及ぶことも考えられる。

The Morning Advertiserによると、Bain CapitalやTerra Firmaを含むほかの買い手候補も、ストーンゲートのポートフォリオの残りの物件の買収を引き続き検討している。これは、ハイネケンとの取引が確認された場合、それがストーンゲートの物件群をめぐるより広範な再編の一部にすぎない可能性を示している。

ハイネケンはThe Morning Advertiserから取材を受けた際、コメントを控えた。同誌はストーンゲートにもコメントを求めたが、報じられた合意について正式な声明は発表されていない。